

平成 26 年度 調査研究委員協力校

【南小泉中学校】

《本校の OJT キーワード》

グループ研修で OJT



資料をもとに互いのノウハウを交換し合う研修

1 本校の OJT

2 OJT 実践

3 OJT 実践の振り返り

4 OJT に取り組んで

1 本校のOJT

- OJTは「教育目標の具現化を図るもの」と位置付ける。
- 校内研修（現職教育）としてグループ研修を実施する。
 - ・ 教員相互に学び合い、高めあうグループ研修を通して教師力の向上を図り、学校教育活動の質を高める。

ファシリテーターの働きかけ

- 全体のファシリテーターは研究主任。
- 教職員一人一人の意識や力量の向上を目指す。
 - ・ 教職員一人一人が培ってきたノウハウの交換、及び若手教員やミドルリーダーの育成を目指した研修となるようにグループを編成し、方法を提示する。
- 日常の指導の意義や意味を見つめ直し、視点や方法を広げる場とする。
 - ・ 教職員が、「なるほど」「今度やってみよう」「勉強になった」と感じることができるよう研修テーマを設定する。
- 互いに学び合う教師、学び続ける教師を目指す上での第一歩にする。
 - ・ 互いに学び合う大切さを実感できるようにするため、年間指導計画にグループ研修を位置づけ、忙しい中でも計画通り必ず実施する。

学び合いの意識化

- 日常の指導場面からのテーマ設定
 - ・ 若手からベテランまでが課題意識を持って研修に参加できるようにする。
- 他の教職員が培ってきたノウハウを誰でも学ぶことができるようにする。
 - ・ テーマに関する資料（レポート）を教職員共有フォルダーに保存し、自由に閲覧できるようにする。
- 「振り返りシート」の活用
 - ・ 「振り返りシート」でグループ研修後に一人一人が研修を振り返り、研修内容の生かし方や研修を通して学んだ視点や方法について意識化を図る。

2 OJT 実践

OJT キーワード

グループ研修で OJT

- グループ編成
 - ・ 学年を問わず 4 グループを編成し，グループチーフ（中堅教員）を中心に研修を進める。
 - ・ 各グループの編成については，若手教員・中堅教員・ベテラン教員が所属するようになる。
 - ・ 各グループのアドバイザー（ベテラン教員）は，研修内容や指導の在り方に適時指導助言する。
- 日時及びテーマ
 - ・ 今年度は，生徒指導・学級経営等の実践力を高めることを目指し，日常の生活場面を意識しながら以下のテーマを設定した。

	日 時	テーマ
第 1 回	5 月 2 3 日（金）	学級開き，学級づくりはどのように行ったか （学級の組織作りや給食・清掃指導など学級経営について）
第 2 回	6 月 2 3 日（月）	学級懇談・家庭訪問～私のすすめ方～ （保護者との心の通う 1 年にするために）
第 3 回	9 月 8 日（月）	部活動指導の在り方
第 4 回	1 1 月 4 日（火）	不登校生徒・支援が必要な生徒への関わり方
第 5 回	3 月 1 0 日（火）	今年度の教育実践を振り返って
第 6 回	月 日（ ）	自由テーマ（話題にしてほしい事）

- ・ 昨年度のグループ研修のテーマ
「学級の席替えをどのように行うか」「道徳授業のすすめ方」
「合唱コンクールに向けての指導のポイント」「通信票の所見の書き方」等
- ・ 各自，事前に提示されたテーマに沿ったレポートを A4 版 1 枚程度にまとめて参加する。
- その他
 - ・ グループ研修は，約 30 分間（16:15～16:45 など）
 - ・ グループ研修は部活動中止期間に実施。ただし，部活動と並行して実施する場合は，生徒に教員が付けない間の練習方法を具体的に指示する。

※次ページに資料「第 1 回グループ研修」実施要項掲載

平成26年度 第1回グループ研修

テーマ：学級開き、学級づくりはどのように行ったか
(学級の組織作りや給食・清掃指導など学級経営について)

1. 目的

教職員一人一人が培ってきたノウハウを交換することとおし、教職員一人一人の意識や力量の向上を図る。

2. 目標

各学級やこれまでの経験の中で、学級開きをどのように進めたか情報交換することにより、学級経営における学級開きの目的や方法、課題等を確認し、学級経営に生かす。

3. 日時 5月23日(金) 16:15～16:45 30'

4. 内容・進め方

(1) メンバーからテーマに関して発表

- ①学級開きをどのように行ったか
- ②学級の組織作りをどのように行ったのか
- ③給食・清掃指導について

*事前に発表内容についてA4・1枚にまとめ、当日は班の人数を分印刷して準備しておいてください。

*研究部への提出もお願いします。保存先は下記のところに。

職員共有-02 研究部-現職教育-グループ研修レポート-第1回

お忙しい中ですが、何とぞよろしくお願いいたします。

(2) 協議

(3) アドバイザーからの助言・指導

(4) 輪番で記録をお願いいたします。様式は後日。記録後はシバタに提出願います。

なお、記録者は①のTからスタートします。

	チーフ	アドバイザー	メンバー				
1班	<input type="text"/>	<input type="text"/>	① <input type="text"/>	② <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	
2班	<input type="text"/>	<input type="text"/>	① <input type="text"/>	② <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	
3班	<input type="text"/>	<input type="text"/>	① <input type="text"/>	② <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	⑤ <input type="text"/>
4班	<input type="text"/>	<input type="text"/>	① <input type="text"/>	② <input type="text"/>	③ <input type="text"/>	④ <input type="text"/>	⑤ <input type="text"/>

5. まとめ

校内研修の振り返りについて、机上にご用意しますので、記入・提出についてご協力をお願いします(締切・5月26日(月))。

3 OJT 実践の振り返り

OJT 実践内容

「グループ研修」

(H26.5月,6月,9月,11月,3月実施)

振り返り方法と留意点

校内研修振り返りシート



グループ研修の振り返り

- ・ 研修前に配付し、研修後すぐに記入、提出する。
- ・ それぞれのグループ研修ごとに「自分にとって」「教職員の」という2つの視点から振り返る。

校内研修振り返りシート								
年齢	~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~
性別	男	女	担当	学年主任	副主任	学級担任	副担任	
○本日の研修は、自分にとって役立つものであったか（以下の番号にひとつ○をつけてください。）								
	4（そう思う）	3	2	1（そう思わない）				
○本日の研修は、教職員の力量向上に役立つものであったか。								
	4（そう思う）	3	2	1（そう思わない）				
○感想や意見など								

・
・
・
を得ることができる。
な意見等を共有するがで
き、同僚性を高めていくために有効である。

OJT 実践内容

「グループ研修振り返り」

(H26.12月実施)

振り返り方法と留意点

南中 OJT 振り返りシート

- ・ 学期ごとに OJT を振り返り、学んだこと、今後学びたいこと、全体で追究したいこと等を確認する。

1 学期	
南中OJT振り返りシート	
～ OJTの推進に向けて～	
☆ OJTとは → 職務遂行等に必要な力量の育成を図るための校内における研修及び同僚間における学び合いや教え合い。	
☆ 仙台市が目指すOJT	
多様な多面的なOJT ・「いつでも、どこでも」 意図的・計画的な校内での研修も、日常の中の学び合いもOJT。 ・「だれとでも」 若手の育成だけでなく、全職員の学び合いがOJT。	同僚性を育むOJT 標準化、高度化した課題に対応するために、個々の指導力向上は欠かせない。同時に、組織として対応する力を高め、同僚性を育んでいくのがOJT。
Off-JTを生かすOJT 「仙台版いきいき教員づくり研修構想」に基づく研修や助産事業が、各学校のOJTの推進を支える。	
1 1 学期のOJTを振り返って	
<input type="checkbox"/> 校内研修（グループ研修など）で学んだこと	
<input type="checkbox"/> 校内研修以外（センター研修、教科研、教科外研、免許更新、自己研修など）で学んだこと	
2 これからのOJT	
<input type="checkbox"/> 校内研修（グループ研修など）で学びたいこと	
<input type="checkbox"/> 校内研修以外（センター研修、教科研、教科外研、免許更新、自己研修など）で学びたいこと	
3 職員全体（学校・学年など）で追究したいこと・深めたいこと	
記入日	月 日
職名	氏名

- ・ 校内研修（グループ研修など）と校内研修以外（センター研修，教科研，教科外研，免許更新，自己研修など）に分けて記入することで教職員一人一人の課題意識を確認し，力量向上への意欲を高める上で有効である。
- ・ 教職員全体として深めたいことを記入する欄を設けることで，教職員一人一人に学校または学年等に対する課題意識を持つきっかけとすることができ，同僚性を高めていくために有効である。
- ・ 年度末には1年の振り返りを行い，今後のOJTの推進に生かしていきたい。

4 OJTに取り組んで

成果

- テーマに関する資料を使用して研修を行うことから、それぞれ蓄積してきた指導のノウハウが紹介されるので、自分の指導と他の教員の指導との共通点や相違点、力点の置き方等を学び合うことができ、教師力を高めることにつながった。
- 指導の位置づけ、意味等を確認することができるので、教師一人一人が日常の指導の意義や意味を見つめ直すことができた。
- 若手教員や中堅教員にとってはベテラン教員からの「教師力の継承」という場にもなり、それぞれの立場で切磋琢磨することで、教師力・組織力、ひいては学校力の向上につながることができた。
- 振り返りシートを記入することで教職員一人一人が課題意識を持ち、OJTの必要性を感じることもできた。また、教職員間の同僚性を高めることにつながった。
- 教職員は日常の指導で多忙であるが、それでも研修の必要性を感じることもできる取組とすることができた。

《先生方の声》

教職経験の多い少ないや年齢の差を超えた内容となり、毎回多くの新鮮な価値観に触れることのできる機会となった。【50代 男性】

年齢に関係なく（年齢それぞれに段階はあるが）、教職員としての悩みは同じようなものであり、それを乗り越えながら成長していく姿が大切だということを共有できた。【50代 女性】

グループ研修の度にレポートの提出を求められたが、簡単なレポート1枚を作成するだけでも、自分にとっては今までの実践を振り返り、反省する機会となった。また、若手の先生方が何につまずいているのかを知る機会ともなり、現場の課題が見えやすくなった。【50代 男性】

同じ課題でも、様々なアプローチの方法があり、有効な手立てを数多く共有できた。でも、大事な核心部分は共通であったことは発見であったし、納得した。【40代 男性】

身近な話題について、他学年の先生方とザックバランに話し合うことで、新しい発見や、より良い改善法を見出すことができ、有意義な時間を持てた。いろいろな手立てがあることを学ぶことができた。【40代 女性】

色々な先生方の取り組み方や考え方を聞くことができよかったです。こういう機会がないと、なかなか教育に対する考え方を語り合うことがないので、参考になった。【30代 男性】

普段、悩んでいることやどのような対応をしていけばよいのか分からないことなどを共有することで、同じことで迷っていることに気付いたり、今後の指導のヒントになったりと、様々な事を学ぶことができた。【30代 男性】

授業や部活動、個別の生徒や保護者の対応は、他の先生の様子を見たり、見られたりする機会は少ないので、これらの様子を情報交換できるのは大変有意義だった。【30代 男性】

様々な先生方の意見を聞き、指導の方向性の見通しが図れた。教室の中の見えづらい所に「こだわり」を持っている先生方が多いことに驚いた。まだまだ足りないところがあることを学んだ。【30代 男性】

自分の悩みや疑問に思っていたことを取り上げてもらえ、他の先生方から適切なアドバイスをいただいた。【30代 女性】

多くの先生方の実践例や経験を聞き、大変勉強になりました。自身もレポートを提供することにより、振り返りにもなりました。短時間ながら、とても充実した研修ができています。【30代 女性】

先輩方、ベテランの先生方も、昔は自分と同じような悩みを抱えていたのだと知りました。通信票の作成や学級懇談会のもち方などについての貴重なノウハウを学ばせていただきました。【20代 男性】

悩みが共有できたこと、新たな考え方や方法、手段が学べて良かったです。【20代 女性】

今後に向けて

- これからも継続的に OJT を実践していくために、研修時間の確保に努めることが課題である。それを克服するために、年度当初教務主任と相談して、部活動中止期間中に放課後 30 分の研修時間を確保する。ただ、実際実施するときになると出張・生徒指導等が入ってしまう教職員もいるため、研修のグループが成立しない場合もあるが、その際は他のグループに合流して研修を行うなど、グループ編成の調整を行う。
- 教職員一人一人の要望に応える研修テーマの設定を行うために、年度末にテーマの希望調査を実施し、今後も必要性を感じることができる研修の企画・立案を行う。
- テーマに関する資料（レポート）の作成に負担を感じる教職員もいることから、職員会議等で校内研修（現職教育）の意義についての説明、資料の形式の簡略化により努め、財産となる資料の作成への協力・理解を得られるようにする。